



未来につながる日々の学び

副校長 武内 伸輔

教室をのぞくと、子供たちが友達と意見を伝え合ったり、一人でじっくり考えたりする姿が見られます。今回は、そんな日々の学びの様子を紹介します。

5年生の国語科「たすねびと」では、「どのように学習を進めていくとよいか」を班ごとに話し合っていました。子供たちはホワイトボードに考えを書いたり、消したりしながら意見を出し合い、学習の進め方を考えていました。

話合いで迷っている班には、教師がこれまでの学習を思い出せるよう声を掛けたり、別の表現の仕方を考えるよう助言したりしていました。最後には各班が考えを発表し、学級全体で学習課題を決めることができました。

自分の考えをもちながら友達の意見にも耳を傾け、よりよい考えをつくろうとする姿が見られました。

1年生の国語科では、新しく学ぶ漢字の書き方や読み方を学習していました。その後、『うみのかくれんぼ』の文章を読み、「はまぐりがどのように隠れているのか」が書かれている部分に線を引き、分かったことをワークシートにまとめていました。

教師は、文章のどこに着目するとよいのかを丁寧に指導しながら、読む力の基礎を育てていました。

また、本校には日本語教室があります。外国にルーツのある子供たちが日本語の理解を深めるために学習しています。

授業では、「あつい」の反対語や「のびる」の反対語を考えながら、日本語への理解を深めていました。その学びを生かして、4年生の国語科「友情のかべ新聞」の内容理解にも取り組んでいました。日本語教室で身に付けた力が、それぞれの学級での学習にもつながるよう支援しています。

先月の学校だよりで校長は、『「子供たちが自分の考えをもち、友達と伝え合い、よりよい考えをつくる場」を大切にしている』とお伝えしました。

今回紹介した5年生の学習の様子は、まさにその姿の一つです。

しかし、このような姿は5年生になって急に身に付いたものではありません。

1年生の授業で見られたように、低学年では読む力や書く力、自分の考えを表現する力などの基礎を丁寧に育てています。そして高学年では、それまでに身に付けた力を生かしながら、自ら考え、友達と関わりながら学習を進める姿へとつながっていきます。

また、日本語教室をはじめ、各学級でも一人一人の学びを大切にしながら指導方法や教材を工夫しています。子供たちが安心して学び、自分らしく成長できるよう、これからも教育活動の充実に努めてまいります。

10月7日（水）は前期の修了式です。令和8年度も折り返しを迎えます。

子供たちは、この半年の間にそれぞれのペースで着実に成長してきました。秋季休業日は短い期間ですが、ぜひお子さんと一緒に、この半年で頑張ったことやできるようになったことを振り返ってみてください。

そして、後期に挑戦したいことや目標について話し合う機会としていただければと思います。



デジタル教科書も、一人一人の学びを支える大切なツールとして活用しています。